

オリンピック

開催期間

2030年2月8日(金)~24日(日)の17日間(想定)

競技数

7競技109種目

※北京2022大会の競技・種目を参考に想定

❄️ 競技紹介

アイスホッケー

- アイスホッケー



ボブスレー

- ボブスレー
- スケルトン



リュージュ

- リュージュ



スケート

- フィギュアスケート
- ショートトラック
- スピードスケート



カーリング

- カーリング



スキー

- アルペンスキー
- クロスカントリースキー
- ジャンプ



バイアスロン

- バイアスロン



- ノルディック複合(クロスカントリー/ジャンプ)



- フリースタイルスキー



- スノーボード



パラリンピック

開催期間 2030年3月8日(金)~17日(日)の10日間(想定)

競技数

6競技80種目

※北京2022大会の競技・種目を参考に想定

❄️ 競技紹介

パラアイスホッケー



車いすカーリング



パラスノーボード



パラバイアスロン

・立位/座位/視覚



パラアルペンスキー

・立位/座位/視覚



パラクロスカントリースキー

・立位/座位/視覚



世界最大の冬季スポーツ大会が北海道・札幌に!

● 参加アスリート数 ※平昌2018大会の実績値

オリンピック

2,891人

パラリンピック

563人

● 競技会場数

オリンピック

17会場

パラリンピック

5会場

〈参考〉東京2020大会

● 参加アスリート数

オリンピック

11,420人

パラリンピック

4,403人

● 競技会場数

オリンピック

42会場

パラリンピック

21会場

❄️ パラリンピックとは

パラリンピックの原点は、1948年に遡ります。当時イギリスの医師であったルードウィッヒ・グットマンは、戦争で障がいを負った人々のリハビリテーションの一環として、車いす使用者によるアーチェリー大会を開催しました。その後、1960年にイタリアのローマで第1回大会が、1976年にはスウェーデンのエンシェルツヴィークで第1回冬季大会がそれぞれ開催され、現在は原則、オリンピックの開催後、同じ都市、同じ会場で行われることとされています。

パラリンピックは、様々な障がいを持つアスリート

が、スポーツを通して無限の可能性を追求し、誰もが公平にその能力を最大限発揮できる機会となります。「Impossible」を「I'm Possible」*へ、パラリンピアンがこれを体現する姿は、私たちに工夫と勇気をもって行動を起こすことの大切さを気付かせてくれます。

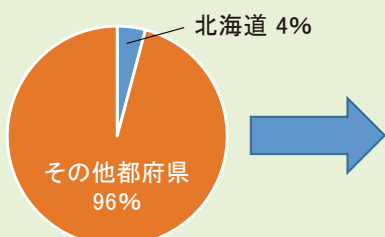
*不可能 (Impossible) だと思えたことも、考え方を変えたり、少し工夫したりすればできるようになる (I'm Possible) という、パラリンピックの選手たちが体現するメッセージが込められた造語



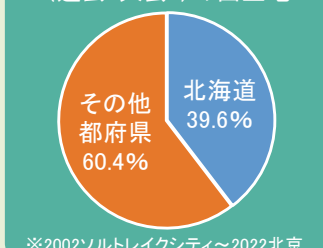
©毎日新聞社/アフロ

北海道出身の冬季オリンピック

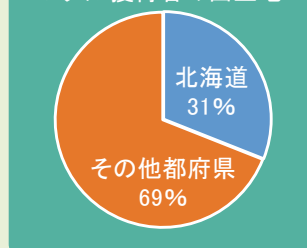
日本に占める
北海道の人口割合



日本人冬季オリンピック
(過去6大会*)の出生地



2022北京オリンピック
メダル獲得者の出生地

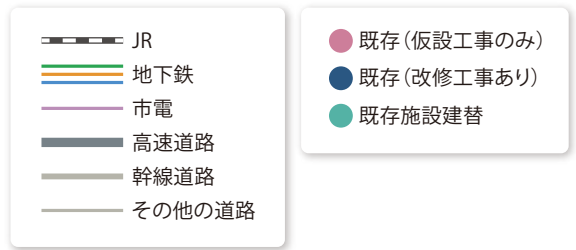
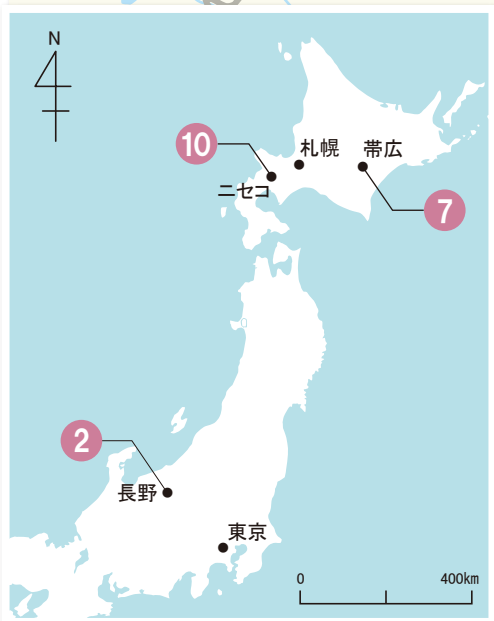
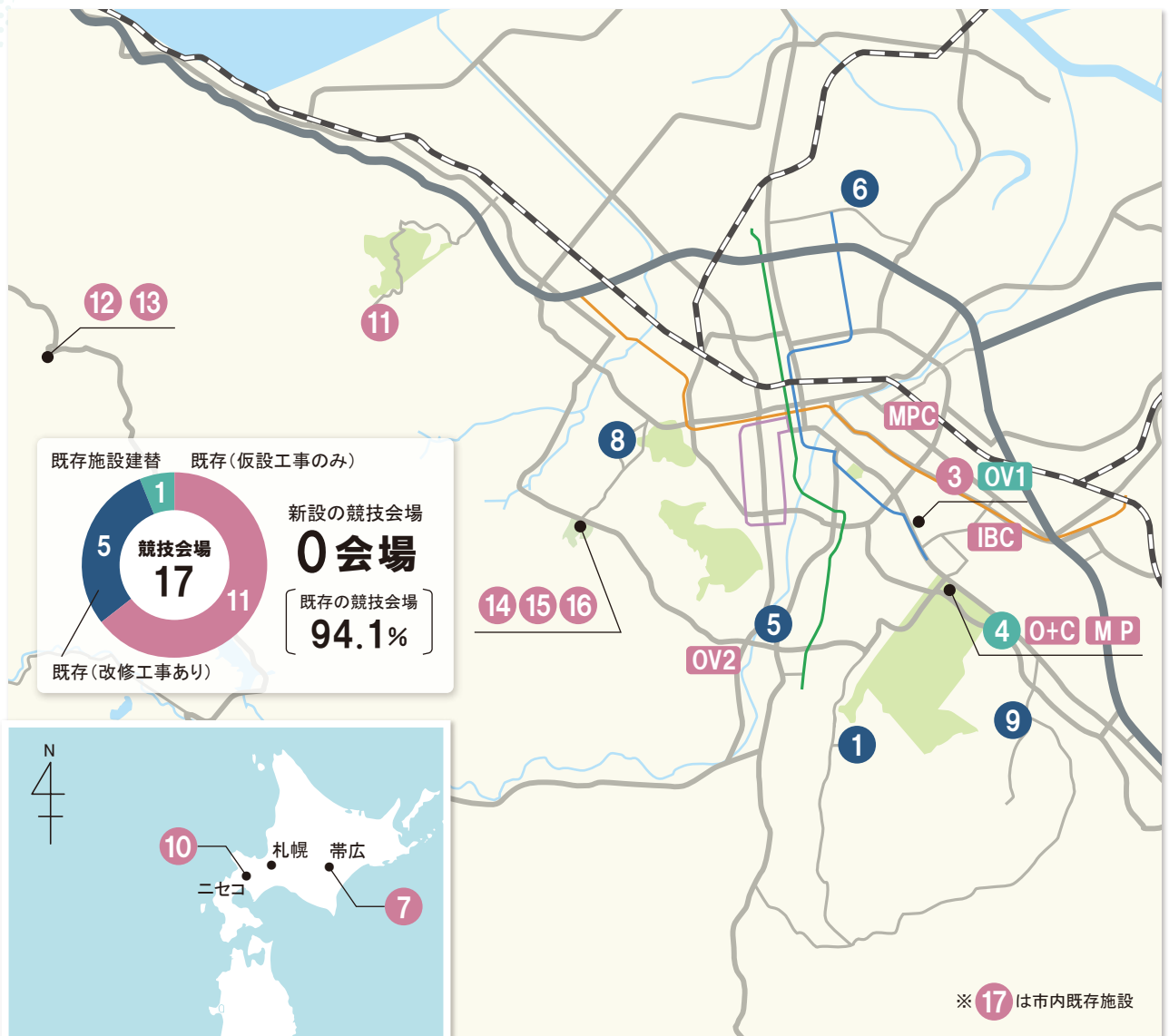


冬季オリンピックに出場する日本代表選手の約4割が北海道出身

会場配置計画

札幌ならではの会場配置計画

- 札幌1972大会時の会場等、すでに市民利用されている施設を最大限活用します。
- 都心の近くでウインタースポーツを楽しめる、札幌の特徴を活かします。
- 樹木の伐採等は、競技に必要な最小限の範囲内におさめ、脱炭素化に貢献する新たな技術を導入するなど、環境保全に努めます。



番号	会場	競技種目等 (■: オリンピック ▲: パラリンピック)
競技会場		
①	西岡バイアスロン競技場	■ バイアスロン ▲ パラバイアスロン/パラクロスカントリースキー
②	長野市ボブスレー・リュージュパーク(スパイラル)	■ ボブスレー・ボブスレー ボブスレー・スケルトン/リュージュ
③	月寒体育館	■ カーリング ▲ 車いすカーリング
④	新月寒体育館	■ アイスホッケー 1 ▲ パラアイスホッケー
⑤	真駒内公園屋内競技場	■ アイスホッケー 2
⑥	スポーツ交流施設コミュニティドーム(つどーむ)	■ スケート・フィギュアスケート スケート・ショートトラック
⑦	帯広の森屋内スピードスケート場	■ スケート・スピードスケート
⑧	大倉山ジャンプ競技場	■ スキー・ジャンプ スキー・ノルディック複合ジャンプ
⑨	白旗山競技場	■ スキー・クロスカントリースキー スキー・ノルディック複合クロスカントリー
⑩	ニセコエリア	■ スキー・アルペンスキー(滑降、スーパー大回転、複合) ▲ パラアルペンスキー
⑪	サッポロティネスキー場	■ スキー・アルペンスキー(大回転、回転)
⑫ ⑬	札幌国際スキー場	■ スキー・フリースタイルスキー/スキー・スノーボード (スロープスタイル、パラレル大回転、クロス) ▲ パラスノーボード
⑭ ⑮ ⑯	さっぽろばんげいスキー場	■ スキー・フリースタイルスキー/スキー・スノーボード (ハーフパイプ、モーグル、エアリアル)
⑰	市内既存施設	■ スキー・フリースタイルスキー/スキー・スノーボード (ビッグエア)
非競技会場		
O+C M P	札幌ドーム	■ 開会式/閉会式/メダルプラザ ▲ 開会式/閉会式/メダルプラザ
MPC	札幌コンベンションセンター	■ メインプレスセンター
IBC	新展示場	■ 国際放送センター ▲ 国際放送センター(メインプレスセンターの機能を含む)
OV1	市営住宅月寒団地	■ 選手村 (選手村から離れた競技会場を利用する選手のため、OV1、OV2とは別に既存ホテルを活用した選手用宿泊施設を配置予定) ▲ 選手村
OV2	アパホテル & リゾート<札幌>	

※この計画は現時点での予定です。今後、変更となる場合があります。
※スキー場については、フィニッシュエリア別に会場数をカウントしています。

1 西岡バイアスロン競技場

■ バイアスロン
▲ パラバイアスロン／パラクロスカントリースキー



所在地	札幌市豊平区西岡
整備手法	既存(改修工事あり)
観客席数	固定席：3,600席 立見席：2,880席

(億円)

施設整備費*	2
・コース造成	
仮設費*	40
・仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	

西岡バイアスロン競技場は1971年に新設され、札幌1972大会においてバイアスロン会場として利用されました。

その後もアジア冬季競技大会やIPCワールドパラノルディックスキーワールドカップ、宮様スキー大会など、多くの国際大会が開催されています。

現在はバイアスロン競技場のほか、陸上自衛隊の教育訓練施設として利用されています。

また、ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点に指定されており、国内トップ選手の強化拠点としても活用されています。



※施設整備費：大会後も継続して利用する施設の改修等に要する費用
仮設費：大会時に一時的に利用する施設等に要する費用] 詳細は、P59～62参照。

2

長野市ボブスレー・リュージュパーク (長野スパイラル)

■ボブスレー・ボブスレー
ボブスレー・スケルトン／リュージュ



所在地	長野県長野市中曾根
整備手法	既存(仮設工事のみ)
観客席数	固定席：1,000席 立見席：5,480席

(億円)

施設整備費	0
仮設費	60
・仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	

長野1998大会にあわせて1996年に開設されたボブスレー・リュージュのコースです。

長野1998大会時には、ボブスレーとリュージュ2競技の会場として利用されました。国内で唯一ソリ競技が行える施設であり、長野大会後も国際競技大会を開催した実績があります。

現在は、冬期の製氷を休止していますが(冬季休園)、夏期はローラーリュージュの練習やノルディックウォーキング施設として市民に利用されています。また、ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点に指定されており、夏期は国内トップ選手の強化拠点としても活用されています。



3 月寒体育館

■ カーリング
▲ 車いすカーリング



所在地	札幌市豊平区月寒東
整備手法	既存(仮設工事のみ)
観客席数	固定席：3,017席 立見席： ー 席

(億円)

施設整備費	0
仮設費	20
・建物改修(仮設)、仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	

月寒体育館は1971年に完成し、札幌1972大会においてアイスホッケー会場として利用されました。

その後も1991年ユニバーシアード冬季大会におけるアイスホッケー会場、2015年世界女子カーリング選手権、2017年冬季アジア札幌大会におけるアイスホッケー会場など、多くの国際大会が開催されております。

現在は、通年型スケートリンクとして多くの市民に利用されています。



©SAWGOC/PHOTO KISHIMOTO

4 新月寒体育館

- アイスホッケー1
- ▲ パラアイスホッケー



※会場イメージ図

所在地	札幌市豊平区羊ヶ丘(予定)
整備手法	既存施設建替
観客席数	固定席：8,400席 立見席： ー 席

(億円)

施設整備費	400
・体育館建設、アイスリンク設備、にぎわい施設※ ※大会時はオリンピックパーク機能として活用	
仮設費	7
・仮設物設置、一般外構	

1971年に建てられた月寒体育館の後継施設として、高次機能交流拠点である札幌ドーム周辺への移転建替を予定している施設です。

これまで月寒体育館で行われていた市民利用や国際大会の開催だけでなく、新たにプロスポーツの観戦や様々なイベントで数多くの方々が訪れる施設となります。

なお、既存施設を最大限に活用するため、2030年大会時には新旧2つの月寒体育館をそれぞれ競技会場として活用します。



©写真：ZUMA Press/アフロ

5 真駒内公園屋内競技場

■ アイスホッケー2



所在地	札幌市南区真駒内公園
整備手法	既存(改修工事あり)
観客席数	固定席：6,215席 立見席： ー 席

(億円)

施設整備費	4
・既存建物改修	
仮設費	4.0
・仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	

1970年に当時の日本最大規模である屋内スケート競技場として建てられた施設です。

札幌1972大会時には閉会式、フィギュアスケート、アイスホッケーの会場、2017年冬季アジア札幌大会にはフィギュアスケート、ショートトラックの会場など、多くの国際大会が開催されており。

夏季はバドミントンやテニス等、冬季はアイスホッケーやフィギュアスケート等のスポーツ利用のほか、コンサートやイベントなど多目的に利用されています。

障がいの有無に関わらず、幅広い世代の市民がスポーツや文化に親しむことが出来るよう、バリアフリー化工事等を行います。



©SAWGOC/PHOTO, KISHIMOTO

6 スポーツ交流施設コミュニティドーム (つどーむ)

■ スケート・フィギュアスケート
スケート・ショートトラック



所在地	札幌市東区栄町
整備手法	既存(改修工事あり)
観客席数	固定席：9,962席 立見席： ー 席

(億円)

施設整備費	1
・既存建物改修	
仮設費	40
・仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	

全天候型施設として、1997年に開設された、札幌ドームに次ぐ規模を持つ多目的施設です。

スポーツだけではなく、イベントなどでも活用され、冬季には札幌を代表する「さっぽろ雪まつり」の第2会場として、国内外から数多くの方々が訪れています。

日常的に多くの市民が野球やサッカー、テニスなどで利用し、「つどーむ」の愛称で親しまれています。

2030年大会時には、仮設の観客席を設置して活用し、オリンピックで利用された施設として、より一層、市民に利用され、親しまれる施設となります。



©SAWGOC/ JapanSports



©SAWGOC/ JapanSports

7 帯広の森屋内スピードスケート場

■ スケート・スピードスケート



所在地	帯広市南町南7線
整備手法	既存(仮設工事のみ)
観客席数	固定席：2,255席 立見席：—席

(億円)

施設整備費	0
仮設費	30
・建物改修(仮設)、仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	

自然条件に左右されず、通年利用が可能な道内唯一の屋内スピードスケート場として2009年に開設された施設です。

開設以来、2017年冬季アジア札幌大会をはじめ、多くの国際競技大会が開催されているほか、日本のトップ選手がトレーニングを行うナショナルトレーニングセンターに指定されています。

スピードスケート競技としての利用に加え、中地多目的広場ではフットサルやテニス、リンク外周はランニング走路として日常的に利用されています。

数多くのメダリストを輩出している、スケート王国帯広・十勝において、地元からトップ選手まで広く親しまれている施設です。



©SAWGOC / JapanSports

8 大倉山ジャンプ競技場

■ スキー・ジャンプ
スキー・ノルディック複合ジャンプ



所在地	札幌市中央区宮の森
整備手法	既存(改修工事あり)
観客席数	固定席：1,700席 立見席：5,860席

(億円)

施設整備費	90
・ラージヒル改修、ノーマルヒル移設	
仮設費	8
・建物改修(仮設)、仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	

1931年に開設され、札幌1972大会に向けて大規模改修されました。

札幌1972大会以降もワールドカップ等数多くの国際大会が行われています。

札幌市内を一望できる立地のため市内有数の観光地として親しまれているほか、隣接する札幌オリンピックミュージアムは冬のスポーツ文化やオリンピック・パラリンピック教育の拠点となっています。

また、ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点に指定されており、国内トップ選手の強化拠点としても活用されています。

今後の維持管理費縮減や運営の効率化等の観点から、ラージヒルの改修に併せてノーマルヒルの併設を計画しています。



©SAWGOC/PHOTO KISHIMOTO

9 白旗山競技場

- スキー・クロスカントリースキー
スキー・ノルディック複合クロスカントリー



所在地	札幌市清田区真栄
整備手法	既存(改修工事あり)
観客席数	固定席：3,600席 立見席：2,880席

(億円)

施設整備費	7
・コース造成	
仮設費	70
・建物改修(仮設)、仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	

本格的なスキー距離競技場として、1990年に完成しました。第2回冬季アジア競技大会や2007年FISノルディックスキー世界選手権札幌大会等多くの国際競技大会が行われています。夏はサッカーやラグビーの競技場として、冬は歩くスキーコースやトレーニングコースが一般開放されており、多くの市民やアスリートが利用しています。全長25kmの起伏に富んだコースは、アジア初のFIS公認クロスカントリーコースです。



©SAWGO/PHOTO KISHIMOTO

10 ニセコエリア

- スキー・アルペンスキー（滑降、スーパー大回転、複合）
- ▲ パラアルペンスキー



所在地	北海道虻田郡ニセコ町
整備手法	既存(仮設工事のみ)
観客席数	固定席：3,600席 立見席：2,880席

ニセコ地区は、1960年代からスキー場が開業していき、これまでには、1962年にアルペンの全日本選手権大会の開催、2度のスキー国体の開催実績があります。

現在は、大規模な民間リゾートがニセコ地区全体に多数整備され、ニセコのパウダースノーを求める多くのスキーヤーが毎年世界中から訪れます。

標高1,308mのニセコアンヌプリを利用した大規模なスキー場には最長滑走距離5,000mを誇るコースから初心者コースまで、幅広い層のスキーヤーから親しまれています。

(億円)

施設整備費	0
仮設費	20
・仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	



©SAWGO/PHOTO KISHIMOTO

11 サッポロテイネスキー場

■ スキー・アルペンスキー(大回転、回転)



所在地	札幌市手稲区金山
整備手法	既存(仮設工事のみ)
観客席数	固定席：3,600席 立見席：2,880席

(億円)

施設整備費	0
仮設費	20
・仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	

1965年に一部コース(現白樺コース)が開業し、札幌1972大会でスキー・アルペンの大回転や回転を開催した後、ハイランドスキー場が開業しました。

1991年にユニバーシアードの開催、3度の冬季アジア競技大会、スキー国体を開催するなど、国際・国内大会の開催実績があります。

現在は、ハイランドスキー場とオリンピアスキー場が統合し、「サッポロテイネ」として営業しています。

スキー場からは札幌市内や石狩湾などを一望でき、自然と都市の近さを実感することができます。また、札幌1972大会で利用されたレガシーのコースは今でも多くのスキーヤーを楽しませています。



©SAWGOC/PHOTO KISHIMOTO

12 13 札幌国際スキー場

- スキー・フリースタイルスキー／スキー・スノーボード
(スロープスタイル、パラレル大回転、クロス)
- ▲ パラスノーボード



所在地	札幌市南区定山溪
整備手法	既存(仮設工事のみ)
観客席数	固定席：3,600席 立見席：2,880席

(億円)

施設整備費	0
仮設費	40
・コース造成、仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	

1978年に開業し、2005年と2017年にはスノーボードの全日本選手権大会を開催しました。

札幌市内のスキー場では最も長い約半年間営業し、国内・国外問わず幅広い層の利用客がスキー場を訪れています。

道内有数の温泉地である定山溪温泉からほど近く、北海道でも屈指のパウダースノーと広大なゲレンデが特徴です。

どのコースも幅が広く、滑走距離が長いので、あらゆるスキーヤー・スノーボーダーを満足させることができます。



©SAWGOC/PHOTO KISHIMOTO

14 15 16 さっぽろばんけいスキー場

■ スキー・フリースタイルスキー
／スキー・スノーボード
(ハーフパイプ、モーグル、エアリアル)



所在地	札幌市中央区盤溪
整備手法	既存(仮設工事のみ)
観客席数	固定席：3,600席 立見席：2,880席

(億円)

施設整備費	0
仮設費	40
・コース造成、仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	

1968年に開業し、スキーやスノーボードのアジア大会、ワールドカップを開催し、2017年の冬季アジア札幌大会では、フリースタイルスキーのモーグル、スノーボードのハーフパイプ会場としても利用されました。

国際スキー・スノーボード連盟(FIS)公認のハーフパイプやモーグルのコースがあるため、多くの大会開催実績があります。

都心から20分というアクセスのしやすさにより多くのファミリー層や、ナイター照明で22時までの営業により仕事帰りのサラリーマンが利用するなど、幅広い層の札幌市民が訪れています。



©SAWGO/PHOTO_KISHIMOTO

17 市内既存施設

■スキー・フリースタイルスキー／スキー・スノーボード
(ビッグエア)



©写真:YUTAKA/アフロスポーツ

所在地	市内既存施設(予定)
整備手法	既存(仮設工事のみ)
観客席数	固定席：3,600席 立見席：2,880席

(億円)

施設整備費	0
仮設費	10
・コース造成、仮設物設置、セキュリティフェンス	

※会場は未定だが、同程度の規格・費用として計画している。

スキー・フリースタイルスキー／スキー・スノーボードのビッグエア種目は、札幌市内の既存施設で開催することを予定しています。

この種目は、スキーやスノーボードで急斜面を滑り、ジャンプの高さや回転技の難度、着地の美しさを競うもので、オリンピックには2018平昌大会から採用されています。

ビッグエアのコースは、全て仮設物で設営する計画としており、コース設置に必要な面積の平地があれば競技を開催できます。シティイベントとしての開催を想定しており、札幌市内の既存施設で検討を進めています。



©写真:AP/アフロ

O+C M P 札幌ドーム

■ 開会式／閉会式／メダルプラザ
▲ 開会式／閉会式／メダルプラザ



所在地	札幌市豊平区羊ヶ丘
整備手法	既存(仮設工事のみ)
観客席数	固定席：37,810席 立見席：— 席

(億円)

施設整備費	20
・にぎわい施設※ ※大会時はオリンピックパーク機能として活用	
仮設費	20
・仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	

2002年のFIFAワールドカップに合わせ、2001年に建てられた施設です。

開設以来、2017年冬季アジア札幌大会の開会式やラグビーワールドカップ2019、東京2020大会など、多くの国際大会が開催されております。

可動式天然芝サッカーフィールド「ホヴァリングサッカーステージ」の導入により、野球やコンサート、展示会など多目的に利用されています。

札幌ドームの周辺には札幌ドームとの相乗効果が期待できる様々な施設の整備を予定しており、大会時には開閉会式に加え、オリンピックパークとして、大会を盛り上げます。



©写真：ロイター/アフロ

MPC 札幌コンベンションセンター

■ メインプレスセンター



所在地	札幌市白石区東札幌
整備手法	既存(仮設工事のみ)

札幌コンベンションセンターは国際都市札幌のコンベンション施設の中核として2003年に開設されました。

現在はさまざまな大型国際会議や学会、イベントなどが開催されており、2017年冬季アジア札幌大会でメディアセンターとしても利用されました。

大会時には記者会見室やカメラマン・新聞記者向けの作業部屋等、報道関係者向けのメインプレスセンター(MPC)として活用されます。

(億円)

施設整備費	0
仮設費	7
・建物改修(仮設)、仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	



©SAWGOC/PHOTO KISHIMOTO

IBC 新展示場

■ 国際放送センター
▲ 国際放送センター ※メインプレスセンターの機能含む



※(仮称)新展示場整備基本計画「図表29 新展示場のイメージパース(外観)」より
※本パースは設計前のものであり、確定したものではありません。

所在地	札幌市豊平区月寒東
整備手法	既存(仮設工事のみ)

(億円)

施設整備費	0
仮設費	80
・仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	

新展示場は企業の展示会や消費者向けの即売会などの様々な催事で利用されているアクセスサッポロに替わる施設として、2026年度から供用開始予定です。

大会時には各競技の映像を編集して世界中に発信する拠点や、各国のTVスタジオ等が設置される国際放送センター(IBC)として活用します。また、競技会場が集約されるパラリンピック時は、札幌コンベンションセンターで担っていたメインプレスセンター(MPC)の機能を集約して、効率的な運営を行います。



OV1 市営住宅月寒団地

■ 選手村
▲ 選手村



※写真は市内の別の既存市営住宅のものです。

所在地	札幌市豊平区月寒東
整備手法	既存施設建替

(億円)

施設整備費	190
・市営住宅の建替え※ ※月寒団地A～Eのうち一部を集約建替え	
仮設費	60
・仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	

市内に設置する2つの選手村の1つ。主に都市エリアの会場を利用する選手団約2,000人を収容します。

更新時期を迎える月寒地区の市営住宅を集約して建替え、一時的に選手村として活用します。

また、周辺の土地も活用し、ダイニングやオリンピックビレッジプラザなどのサービス機能を仮設で整備します。

選手村として利用する際は、ユニバーサルデザインを導入し、すべての選手に安全で快適な環境を提供します。



©写真:代表撮影/ロイター/アフロ

OV2 アパホテル & リゾート〈札幌〉

■ 選手村



所在地	札幌市南区川沿
整備手法	既存(仮設工事のみ)

市内に設置する2つの選手村の1つ。主に山岳エリアの会場を利用する選手団約2,000人を収容する予定です。

新たな建物を整備するのではなく、既存ホテルを活用します。本ホテルは、市内でも最大規模の収容能力を誇る施設であり、2017年冬季アジア大会でも選手村として使用されています。

また、隣接する南区体育館などを活用してサービス機能等を確保し、選手が最高のパフォーマンスを発揮できる快適な環境を提供します。

(億円)

施設整備費	0
仮設費	10
・仮設物設置、一般外構、セキュリティフェンス	



その他の選手用宿泊施設

地方会場及び選手村から1時間以上かかる会場を利用する選手団については、各会場に近接した既存ホテルを利用します。選手団の人数に応じた適切な規模で会場へのアクセス性の良いホテルを利用します。



Para Alpine Skiing



Alpine Skiing

© SAWGOC / PHOTO KISHIMOTO



Biathlon

© SAWGOC / PHOTO KISHIMOTO



Para Biathlon



Figure Skating

© SAWGOC / JapanSports



Bobsleigh

Hokkaido Sapporo 2030 Olympic And Paralympic Winter Games

